



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会 2008年（平成20年）11月15日号 No. 1446

目次

■ロシア電力セミナー報告	1
■統計速報	7
2008年1～9月のロシア経済／7	
■トピックス	7
東洋ゴムがロシアに販社を設立／7	
ロシア産丸太、品種間の価格差拡大／7	
JICAがカザフ地域振興マスタープランを完成／8	
■エトセトラ	8
特別シンポジウム「どうなる？資源大国ロシア」／8	

ロシア電力セミナー報告

はじめに

ロシアの電力セクターでは2008年6月末、それまでの独占企業体であった「ロシア統一電力システム（UES）」がその役割を終え、電力送電線、給電指令など独占が継続するセクターと競争が自由化されるセクターに分割された。UESについては、比較的早い段階から改革の必要性が認識されており、下部機構であった従来の垂直統合型の各地域電力会社が発電、送電、配電、電力販売などの事業部門別に分割。さらにそれらが地域をまたぐ複数の発電会社、送電会社などに再統合されるなどの具体策が進められてきた。

民間投資家の資金を呼び込み、増大する国内電力需要を満たしていくことを目指すロシア政府は、改革の仕上げとして、ロシアの総発電量の7割近くを占める火力発電を完全に民営化し、競争原理で運営する民間セクターに移行させるとしている。それがどのようなビジネス・チャンスに結びつくのか。自由化の帰趨が注目されているなか、今号では、当会がロシアの電力コンサルタント会社、発電会社、送電会社の幹部の来日を機に、10月22日に東京・如水会館にて開催した「ロシア電力セミナー」における各社の報告内容を紹介する。